

兵庫県支部

震災 10 年目を迎えて 被災地域における中小企業の現状と課題

平成 7 年 1 月 17 日に発生した阪神・淡路大震災から 10 年の月日が流れた。あの未曾有の大災害の後において、被災地域に根ざしている中小企業の現状と課題はどうなっているのか？

この調査・研究においては、震災後も比較的活発に活動を続けている企業（いわゆる元気企業）を対象とし、震災後の取り組みについて調査を行うことにより、中小企業が行うべき「環境変化への対応策」としてまとめることとした。その結果の概要は、以下の通りである。

アンケート調査結果から読み取れる元気企業の特徴

- ・ 事業内容の革新（変更）を積極的に行っている。
- ・ 震災の経験を否定的でなく、前向きに捉えている。
- ・ 「資金」「人材」に困っており、「制度融資」「人脈」を活用している。

元気企業の成功要因

1．震災への前向きな対応

震災という大きな環境変化に対し、経営者が決してひるむことなく、それぞれの志をもって時代の変化に対応し、自分の道を切り開いていく姿勢が成功要因の第一要素である。

2．強みの自覚、発展

自社が保有する技術力やサービス力等の「強み」を自覚し、その「強み」に対して限られた経営資源を集中させている。また、企業の背骨とも言える「経営理念」がしっかりしている企業ほど元気であると言える。

3．弱みの補強

人材問題、資金問題等の「弱み」を自覚し、それを環境や周囲のせいにせず補う方法を考え、企業内部を充実させようと自助努力を続けながら、ネットワークや外部人材、専門家、公的支援などを有効に活用している。

4．リスクへの準備

元気企業の中には、経営計画の策定や各社個別のリスクへの対応など、「リスクマネジメント的な対応」を行っている企業も多く存在するが、より実質的で具体的なリスクマネジメント経営を構築し、効率的なリスク管理を実践していくことが重要な成功要因になると思われる。

環境変化対応への提言

中小企業が今後の「環境変化」を乗り越り成長を継続するための課題として、以下の3つを提言する。

1. 「普遍と変化」のバランス（経営戦略面における提言）

経営者の強い意志や会社固有の強みといった「普遍の機軸」とリスクに応じた社内体制や事業形態の見直しといった「変化への柔軟性」のバランスした経営が必要である。

2. 人材育成

リスク発生等非常時や経営革新および成長発展の各段階において、企業を支える屋台骨となるのは自社の社員であり、社長の信念を理解し、目標を達成していく「頼りがいのある人材」をどれだけ社内に確保できるかが、企業の足腰の強さにつながる。

3. リスクマネジメント

震災に限らずさまざまなリスクが顕在化している現在を生き残るためには、普段よりリスク発生を想定した対策を講じておくことが必要となる。リスクマネジメントは守りの行動ではなく攻めの行動であり、それを実行することが企業の成長力・競争力を高めることにつながる。